

# 決算補足説明資料

FY23 2Q

2023年8月10日

ノーリツ鋼機株式会社  
証券コード：7744（東証プライム市場）

**NORITSU**

© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. | 1

- 只今より、ノーリツ鋼機株式会社、2023年12月期 上半期決算説明会を開催いたします。
- 今回は、はじめに決算の内容について説明し、その後Q&Aセッションという形式で行わせていただきます。
- 決算内容については、岩切CEOからハイライトとピックを、横張CFOから業績報告と業績予想を説明いたします。

### ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている当社の現在の計画、戦略等のうち、歴史的事実でないものは、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は、様々な要因やリスクにより大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。

### ■ 事業EBITDAについて

事業EBITDAは、営業利益から、その他の収益・費用を加減し、減価償却費及び償却費（使用権資産の減価償却費を除く）を加えて算出しております。  
連結財務諸表上に定義されていない指標であるものの、非経常的な損益や償却費に左右されない企業の本来の収益力を示すことから、連結財務諸表の利用者がノーリツ鋼機の業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

### ■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て  
比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入  
当期利益：親会社の所有者に帰属する四半期/当期利益

FY21：2021年12月期

FY22：2022年12月期

FY23：2023年12月期

●本日の説明内容等につきましては、こちらに記載している免責事項をご確認ください。

**FY23 2Q累計 連結業績**

- 売上収益及び営業利益ともに、増収増益。業績予想に対しても上振れ
- 当期利益は、株式売却益等があった前年同期に対しては減益であるものの、業績予想に対しては上振れ
- テイボーは、筆記はアジア及び中南米市場が堅調だった一方、欧米及び国内市場が停滞し減収。MIMは顧客の生産調整の影響が続き、前年同期並みで着地
- AlphaThetaは、好調な需要と供給の正常化により、売上収益及び事業EBITDAともに増収増益。業績予想に対しても上振れ
- JLabは、米国の家電小売市場の停滞が続くなかでもシェアを拡大し、増収。業績予想に対しても上振れ

**FY23 通期連結業績予想**

- 想定為替レートの見直し及び上半期までの進捗等を反映し、通期業績予想について上方修正。下半期は不確実性を考慮して保守的に織り込み
- 配当予想は、配当性向40%以上とする目標に変わりはないものの、現時点では変更なし

● 岩切です。

● FY23 上半期決算のハイライトです。

● 上半期の連結業績は、売上収益及び営業利益ともに増収増益となりました。業績予想に対しても上振れで着地しています。

● 当期利益は、株式売却益等があった前年同期に対しては減益ですが、業績予想に対しては上振れとなります。

● 各社個別では、テイボーは、筆記はアジア及び中南米市場が堅調だった一方で、欧米及び国内市場が停滞し減収となりました。MIMは顧客の生産調整の影響が続いており、前年同期並みで着地しております。このところ成長事業に位置付けているMIMにおいて、生産調整という説明が続いていますが、決して将来見通しが下がっているわけではなく、注力事業というのは変わりません。コロナ禍で新規開拓が鈍化してしまった点、既存顧客の生産調整の影響をカバーするまでには至っていないという構図ですが、むしろこの間に、将来飛躍成長するための品質や生産性の向上、量産化に向けた課題も特定できており、これらの改善に、よりリソースをかけて取り組んでいる状況にもあります。既存顧客を中心とした足元のニーズにしっかりと対応しつつ、今年は成長に向けた準備期間として、位置付けております。

● AlphaThetaは、好調な需要と供給の正常化により、売上収益及び事業

EBITDAともに増収増益となりました。業績予想に対しても上振れで着地しています。

● JLabは、米国の家電小売市場の停滞が続くなかでもシェアを拡大しており、増収となりました。事業EBITDAについては、前年同期のマイナス3億円程度から当期マイナス1億円程度と、赤字幅が縮小しました。業績予想に対しては売上収益、事業EBITDAともに上振れとなっています。

● 続いて通期の連結業績予想ですが、想定為替レートの見直し及び上半期までの進捗等を反映し、上方修正いたします。下半期は不確実性を考慮し、保守的に織り込んでおります。

● 配当予想は、配当性向を40%以上とする目標に変わりはありませんが、現時点では変更いたしません。

## Contents

1. FY23 2Q累計 連結業績
2. FY23 通期連結業績予想
3. トピック

- 横張です。
- FY23 上半期連結業績を説明いたします。

## ■ 連結業績サマリ

**NORITSU**

- 売上収益及び営業利益ともに、増収増益。業績予想に対しても上振れ
- 当期利益は、株式売却益等があった前年同期に対しては減益であるものの、業績予想に対して上振れ

単位：百万円	FY22 2Q累計	FY23 2Q累計	増減額	増減率
売上収益	31,536	<b>41,469</b>	+9,932	+ 31.5%
事業EBITDA	5,049	<b>8,046</b>	+2,997	+59.4%
事業EBITDAマージン	16.0%	<b>19.4%</b>	+3.4%	-
営業利益	3,267	<b>7,365</b>	+4,097	+125.4%
当期利益	101,121	<b>4,454</b>	△96,667	-95.6%
為替レート (平均)				
米ドル (円)	122.9	<b>134.9</b>	+12.0	-
ユーロ (円)	134.3	<b>145.8</b>	+11.5	-
為替レート (期末)				
米ドル (円)	136.7	<b>145.0</b>	+8.3	-
ユーロ (円)	142.7	<b>157.6</b>	+14.9	-

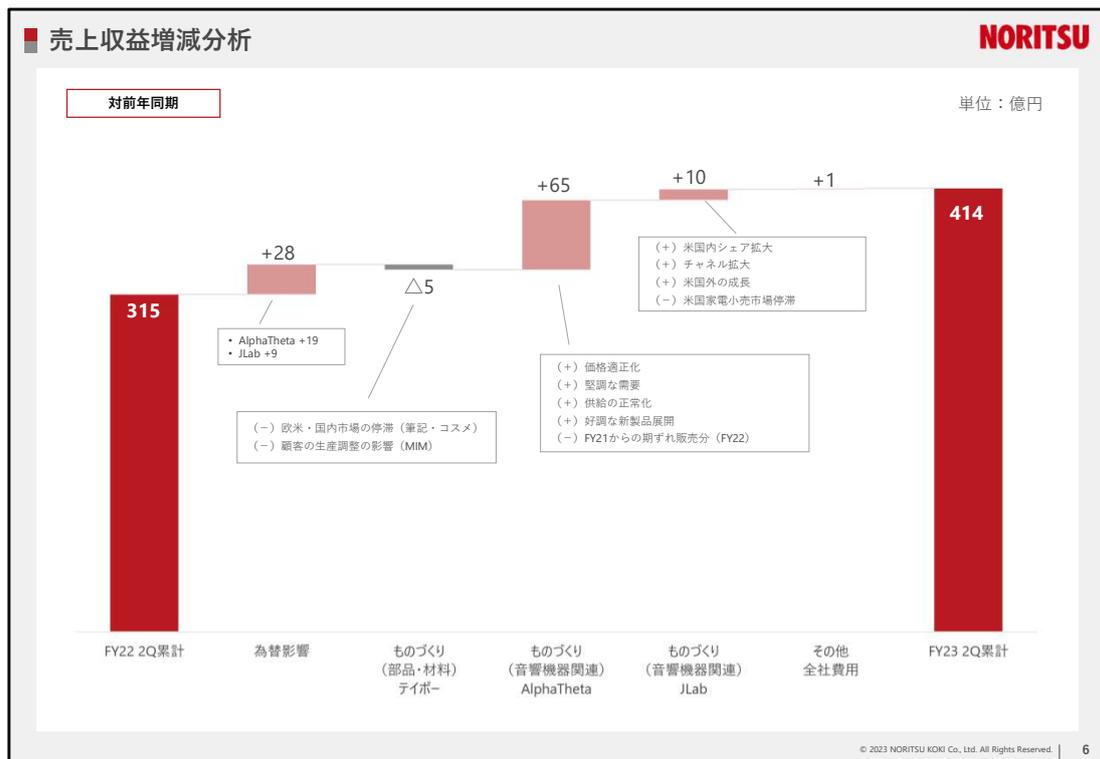
\*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。

© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. | 5

●こちらは、連結業績サマリです。

●売上収益、営業利益ともに、増収増益で、業績予想に対しても上振れで着地しました。

●当期利益は、株式売却益等があった前年同期に対して減益となりましたが、業績予想に対しては上振れで着地しました。

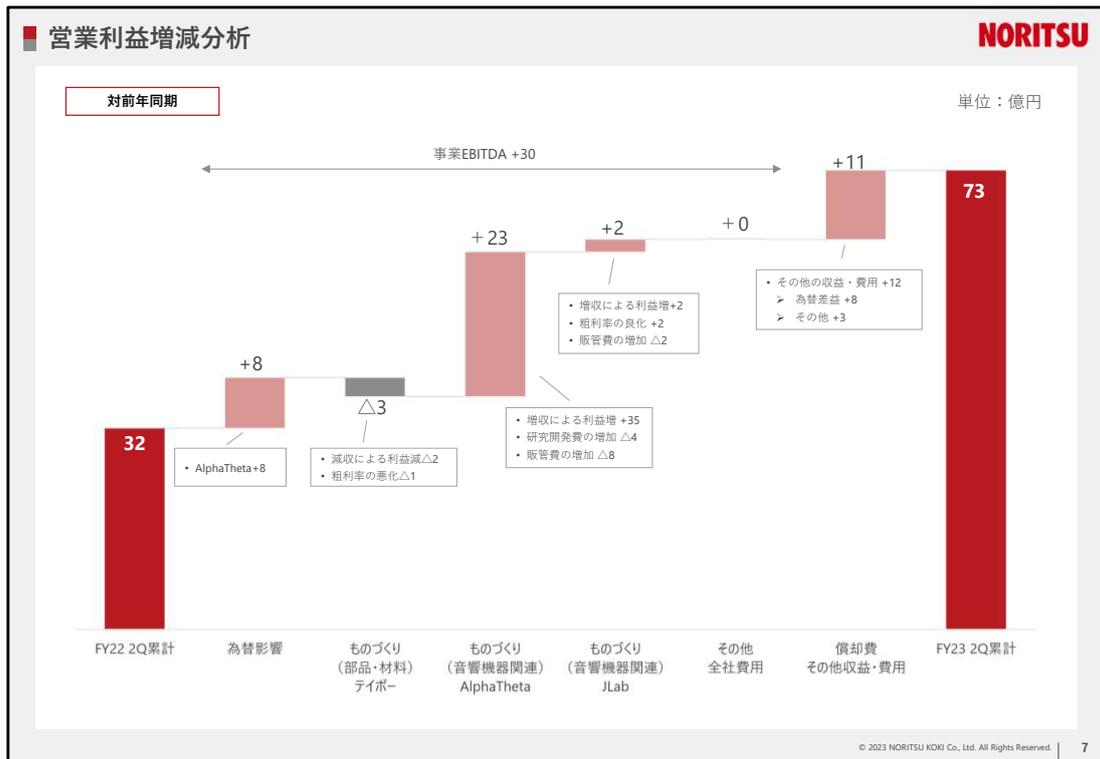


- 続いて、売上収益の増減分析です。
- 左がFY22、右がFY23の上半期実績です。
- まず、為替影響で+28億円です。

● 次に個社別ですが、テイボーはΔ5億円です。筆記は、アジアと中南米市場が堅調に推移した一方で、欧米と国内市場が停滞し、減収です。コスメも、欧米と国内市場が停滞し、減収です。MIMは、顧客の生産調整の影響が続き、前年同期並みで着地しました。

● AlphaThetaは、為替影響を除き、+65億円です。堅調な需要と供給の正常化により、大きく伸ばすことができました。新製品もエントリー向け、プロユース向けともに好調に推移しております。

● JLabは、為替影響を除き、+10億円です。米国家電小売市場が停滞する中、継続してシェアを拡大できております。加えて、パソコン周辺機器等のWorkシリーズでBtoBや、オンラインでの販売が拡大できております。



●次に、営業利益の増減分析です。

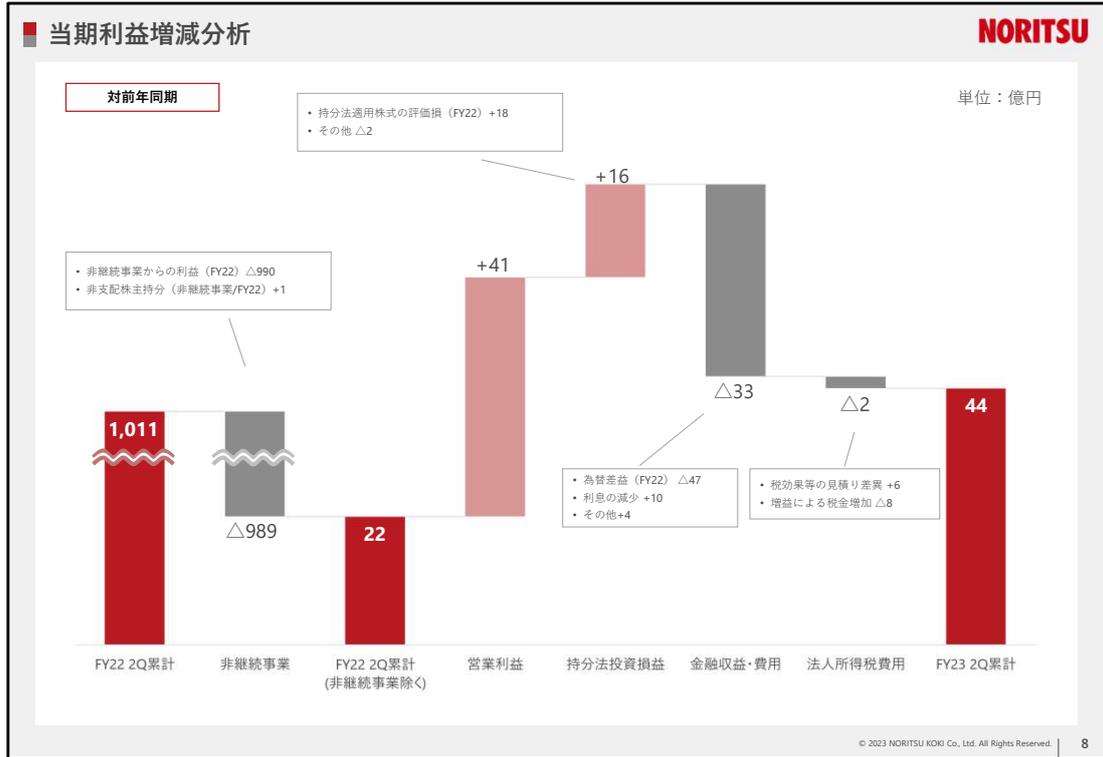
●まず、為替影響で+8億円です。

●次に会社別ですが、テイボーは、△3億円です。主に減収により利益減となりました。

●AlphaThetaは、為替影響を除き、+23億円です。増収により利益が大きく伸びました。収益性の観点では、1Qは前年同期の期ずれ販売によるプロダクトミックスの影響で粗利率が悪化しましたが、調達価格の適正化によって、2Qでは良化して、上半期では悪化の影響はございません。

●JLabは、為替影響を除き、+2億円です。増収による利益増に加えて、粗利率が良化しました。価格の適正化やコスト低減策の効果によって、収益性が改善できております。

●以上に加えて、その他の収益として、外貨建ての現預金や債権の為替の評価益が、円安進行に伴い、増加しました。



●次に、当期利益の増減分析です。

●非継続事業からの損益を除くと、前年同期の22億円に対して、当期は44億円  
で着地しました。

●まず、前年同期は、持分法適用株式の評価損と、外貨建て債権の為替の評価  
益を計上しましたが、当期では、その影響がなくなります。

●これらを除くと、営業利益の増益に加えて、借入金の返済を進めた結果、利息が  
減少し、収益性が改善できております。

## ■ バランスシートの状況

**NORITSU**

FY22の株式売却益に係る法人所得税費用の支払い等により、現金及び現金同等物が減少するが、財務健全性を維持

### バランスシート

単位：百万円	FY22	FY23 2Q	増減額
現金及び現金同等物	96,436	<b>59,903</b>	① △36,533
売上債権及びその他の債権	14,834	<b>13,910</b>	△923
棚卸資産	16,107	<b>15,971</b>	△135
のれん	48,589	<b>49,487</b>	+898
無形資産	78,302	<b>79,047</b>	+744
その他資産	52,986	<b>70,785</b>	② +17,798
<b>資産合計</b>	<b>307,257</b>	<b>289,106</b>	△18,151
仕入債務及びその他の債務	6,296	<b>8,008</b>	+1,712
借入金	48,054	<b>41,223</b>	△6,830
その他負債	60,038	<b>33,324</b>	③ △26,713
<b>負債合計</b>	<b>114,388</b>	<b>82,557</b>	△31,830
<b>資本合計</b>	<b>192,869</b>	<b>206,548</b>	+13,679
<b>財務健全性</b>			
有利子負債	48,054	<b>41,223</b>	△6,830
現金性資産	132,200	<b>112,941</b>	△19,259
<b>Net Debt</b>	<b>△84,146</b>	<b>△71,717</b>	+12,429

### 主な増減要因

- ① 現金及び現金同等物△365億円
  - ・ 営業CF△217億円
    - － 事業EBITDA+80億円
    - － 営業活動に係る資産・負債の増減 +48億円
    - － 法人所得税費用の支払い△354億円
  - ・ 投資CF△11億円
  - ・ 財務CF△150億円
    - － 借入金の返済△70億円
    - － 配当金の支払い△46億円
- ② その他資産+177億円
  - ・ その他の金融資産+173億円
- ③ その他負債△267億円
  - ・ 未払法人所得税の減少△343億円
  - ・ 繰延税金負債の増加 +62億円

© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. 9

● 続いて、バランスシートです。

● 前期の株式売却益に係る法人所得税費用を支払ったことで、現金及び現金同等物は減少しておりますが、財務健全性は維持できていると考えております。

● その他の増減として、その他の金融資産と繰延税金負債については、保有株式の時価評価等によって、それぞれ増加しております。

## ■ セグメント別業績

NORITSU

セグメント別業績は下記のとおり

単位：百万円		FY22 2Q累計	FY23 2Q累計	増減額	増減率
ものづくり (部品・材料)	売上収益	6,298	<b>5,808</b>	△489	-7.8%
	事業EBITDA	1,853	<b>1,522</b>	△330	-17.8%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	24,673	<b>34,984</b>	+10,311	+41.8%
	事業EBITDA	3,578	<b>6,938</b>	+3,359	+93.9%
AlphaTheta	売上収益	16,820	<b>25,184</b>	+8,363	+49.7%
	事業EBITDA	3,897	<b>7,053</b>	+3,156	+81.0%
JLab	売上収益	7,852	<b>9,800</b>	+1,947	+24.8%
	事業EBITDA	△318	<b>△115</b>	+203	-
その他・全社費用	売上収益	565	<b>675</b>	+110	+19.6%
	事業EBITDA	△382	<b>△414</b>	△31	-
連結合計	売上収益	31,536	<b>41,469</b>	+9,932	+31.5%
	事業EBITDA	5,049	<b>8,046</b>	+2,997	+59.4%

© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. 10

- セグメント別業績はご覧のとおりです。
- テイボーは、減収減益です。AlphaThetaは増収増益です。
- JLabは増収で、赤字幅が縮小しました。事業EBITDAについては、上半期予想でも赤字の想定で、予想に対して上振れで着地しました。

## Contents

1. FY23 2Q累計 連結業績
2. FY23 通期連結業績予想
3. トピック

- 以上が、FY23上半期の連結業績です。
- 続いて、FY23の通期連結業績予想を説明いたします。

**全事業共通**

- 為替について、上半期は米ドル、ユーロともに、上半期実績、下半期は米ドル130円、ユーロ140円の前提

**ものづくり（部品・材料）/テイボー**

- 筆記は、アジア及び中南米市場の需要が回復するも、欧米及び国内市場が停滞
- コスメは、中国市場が回復するも、欧米及び国内市場が停滞
- MIMは、顧客の生産調整等の回復が遅れ停滞が続く
- 上半期の進捗に伴い、下方修正

**ものづくり（音響機器関連）/AlphaTheta**

- 堅調な需要及び供給の改善により売上伸長
- 新製品も予定通り市場投入し、好調に推移
- 調達価格の適正化が進み、収益性が改善
- 上半期の進捗に伴い、上方修正
- Serato Audio Research Limitedの株式取得はクロージング前のため、反映せず

**ものづくり（音響機器関連）/JLab**

- 上半期は上振れたものの、今後の不確実性を考慮し、為替影響を除き、予想は変更せず

- 今回、通期連結業績予想を修正しましたが、前提について説明いたします。
- まず、すべての事業に共通するものとして、為替レートを見直しました。修正予想では、上半期は米ドル、ユーロともに実績、下半期は、米ドル130円、ユーロ140円と置いております。
- 為替の影響については、詳細をAppendixに付けておりますので、ご確認いただけますと幸いです。
- 次に、個社別で、まずテイボーですが、筆記はアジアと中南米市場の需要が回復するも、欧米と国内市場が停滞する見通しです。
- コスメは、停滞が続くと考えていた中国市場が回復するも、筆記同様に、欧米と国内市場が停滞すると考えております。
- 最後、MIMについては、下半期から顧客の生産調整等から回復基調に入るとの想定でしたが、遅れる見込みです。
- これらにより、テイボーは、上半期の進捗に伴い、下方修正となります。
- 当期は厳しい状況が続く見通しのテイボーですが、ペン先では、生産効率が前期よりも向上しておりますし、海外出張をはじめとする営業活動も強化しております。MIMに関しては、様々な面での課題を特定し、将来の飛躍成長のため、その解決

に取り組んでおります。

- 次に、AlphaThetaですが、堅調な需要と供給の改善により、売上収益が大きく伸びました。
  - 新製品も予定通り市場投入して、エントリー向け、プロユース向けともに、好調に推移しました。
  - 収益性の観点でも、調達価格の適正化が進み、改善しました。
  - これら上半期の進捗に伴い、上方修正となります。
  - 7月に公表したSerato社の株式取得については、クロージング前のため、今回の修正には反映しておりません。
- 
- 最後に、JLabですが、上半期は予想に対して上振れで着地しましたが、今後の不確実性を考慮して、為替以外では、予想は変更しておりません。

**FY23 通期連結業績予想サマリ** **NORITSU**

想定為替レートの見直し及び上半期までの進捗等を反映し、上方修正

単位：百万円	FY23 期初予想	FY23 8/10付修正予想	対期初予想	FY22	対前期
売上収益	80,000	<b>84,800</b>	+4,800	73,515	+ 15.3%
事業EBITDA	12,400	<b>15,500</b>	+3,100	11,367	+ 36.3%
事業EBITDAマージン	15.5%	<b>18.3%</b>	+2.8%	15.5%	+2.8%
営業利益	7,600	<b>11,200</b>	+3,600	1,262	+ 787.1%
当期利益	4,300	<b>6,700</b>	+2,400	101,548	-93.4%
為替レート (平均)					
米ドル (円)	130.0	<b>132.4</b>	+2.4	131.4	+1.0
ユーロ (円)	132.0	<b>142.9</b>	+10.9	138.0	+4.9
為替レート (期末)					
米ドル (円)	130.0	<b>130.0</b>	-	132.7	-2.7
ユーロ (円)	132.0	<b>140.0</b>	+8.0	141.5	-1.5

\*JMDC株式の一部株式譲渡に伴い、FY22において医療情報に関する事業を非継続事業に分類しております。  
\*3Q以降の為替レートは米ドル 130.0円、ユーロ 140.0円と想定しております。

© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. 13

- こちらは、FY23の通期連結業績予想サマリです。
- 先ほどの修正の前提のとおり、想定為替レートの見直しや、上半期までの進捗等を反映して、上方修正となります。
- 下半期については、不確実性を考慮して、保守的に織り込んでおります。

## ■ FY23 通期セグメント別業績予想

NORITSU

- テイボーは、ペン先の停滞、MIMの回復の遅れを反映し、下方修正
- AlphaThetaは、上半期の上振れと為替影響を反映し、上方修正。下半期は為替以外、据え置き
- JLabは、為替影響のみ反映し、売上収益を上方修正、事業EBITDAは据え置き

単位：百万円		FY23 期初予想	FY23 8/10付修正予想	対期初予想	FY22	対前期
ものづくり (部品・材料)	売上収益	13,100	12,000	△1,100	12,717	-5.6%
	事業EBITDA	3,800	3,300	△500	3,718	-11.3%
ものづくり (音響機器関連)	売上収益	65,500	71,400	+5,900	59,516	+20.0%
	事業EBITDA	9,500	13,100	+3,600	8,234	+59.1%
AlphaTheta	売上収益	41,300	46,800	+5,500	36,362	+28.7%
	事業EBITDA	7,700	11,300	+3,600	6,897	+63.8%
JLab	売上収益	24,200	24,600	+400	23,154	+6.2%
	事業EBITDA	1,800	1,800	-	1,337	+34.6%
その他・全社費用	売上収益	1,400	1,400	-	1,282	+9.2%
	事業EBITDA	△900	△900	-	△586	-
連結合計	売上収益	80,000	84,800	+4,800	73,515	+15.3%
	事業EBITDA	12,400	15,500	+3,100	11,367	+36.3%

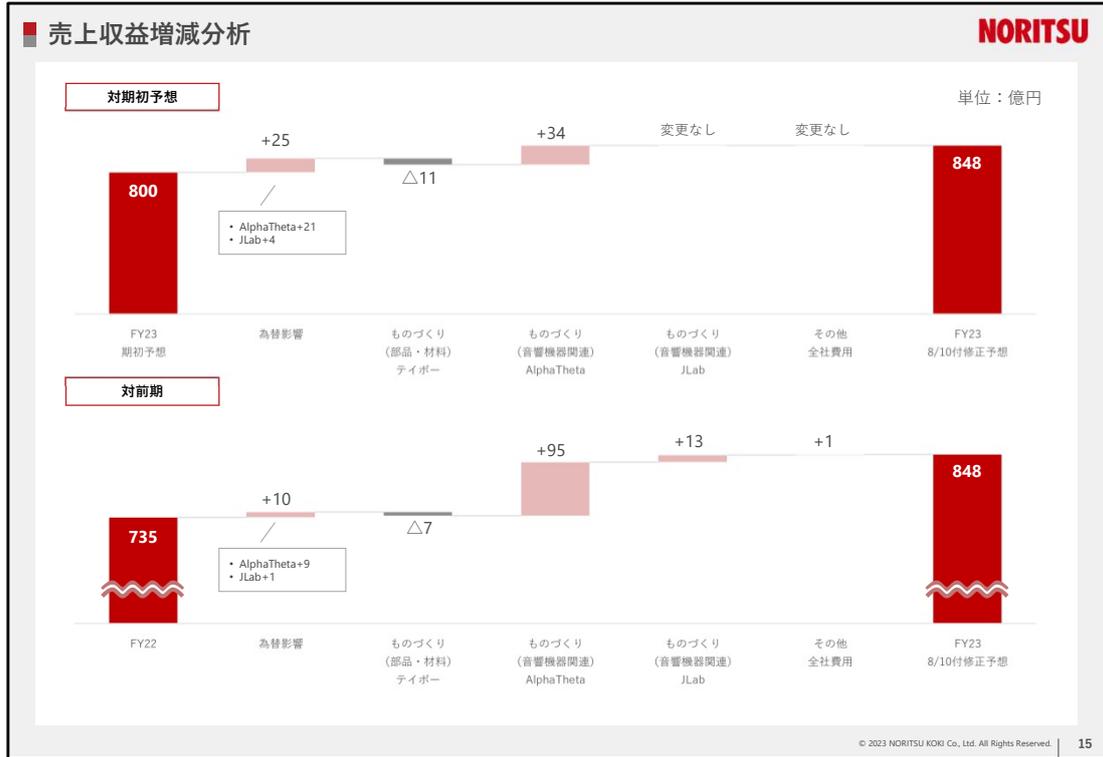
© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. 14

●続いて、通期セグメント別業績予想です。

●部品・材料のテイボーは、ペン先の停滞や、MIMの回復の遅れを反映して、下方修正となります。

●AlphaThetaは、上半期の上振れと為替影響を反映して、上方修正となります。下半期は為替以外、期初の予想から変更はございません。

●JLabは、為替影響のみ反映して、売上収益を上方修正、事業EBITDAは据え置きとなります。



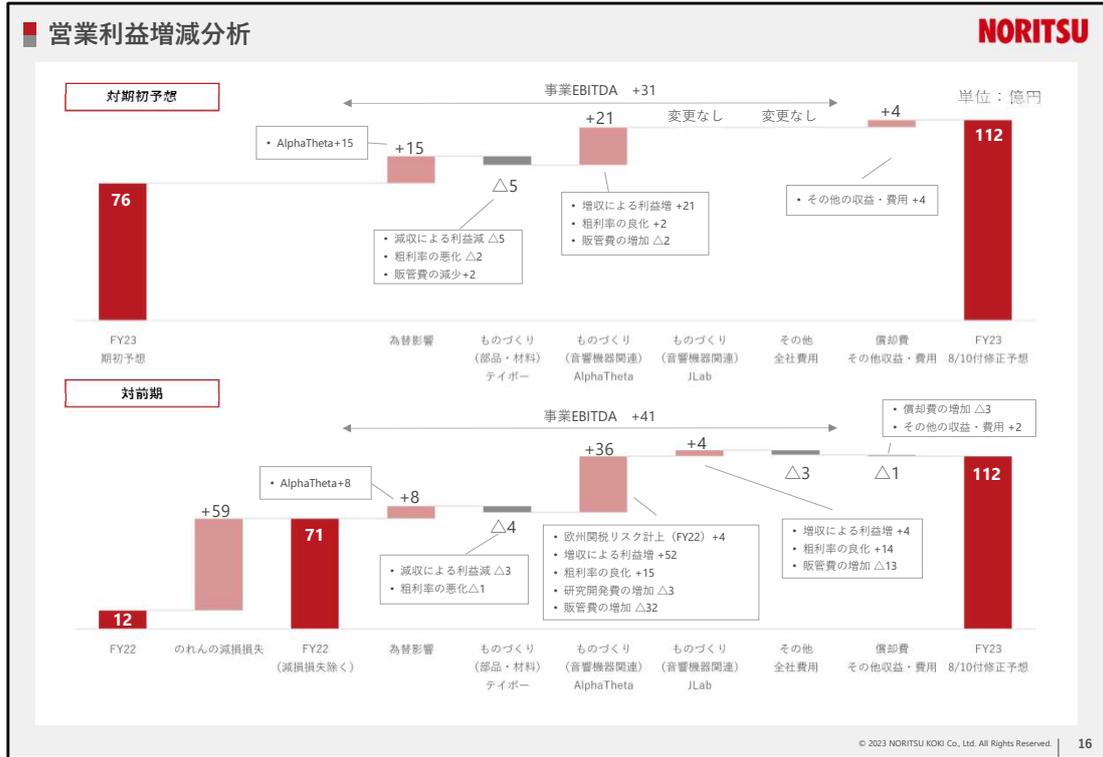
●次に、売上収益の増減について、こちらの2つのウォーターフォールにて説明いたします。

●上段が期初予想との比較で、左が期初予想、右が修正後の予想数値です。

●まず、為替影響で+25億円です。

●次に個社別ですが、テイボー△11億円、AlphaTheta+34億円です。JLabは為替を除き、変更はございません。

●その結果、下段の対前期比較では、為替影響を除き、テイボーは減収、AlphaThetaとJLabは増収の見込みです。



●続いて、営業利益の増減分析です。

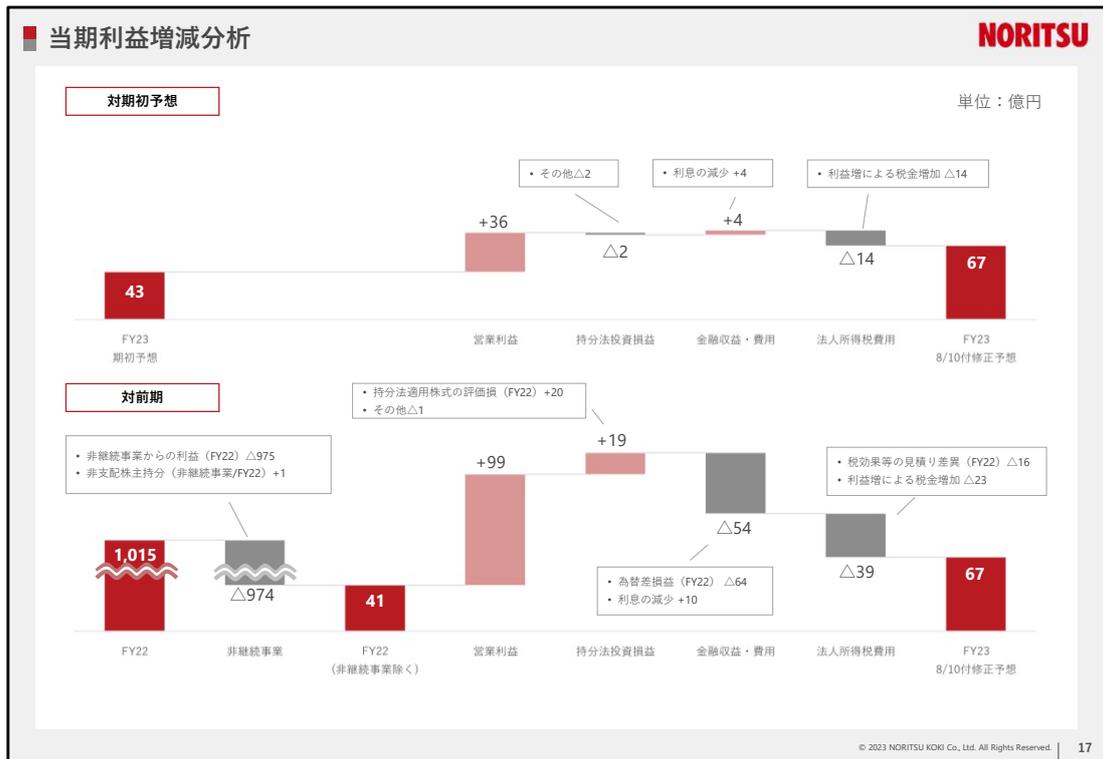
●まず、上段の期初予想との比較では、為替影響で+15億円です。

●テイボーは、△5億円です。減収により、利益減の見込みです。また、生産量の減少により、粗利率が悪化しますが、コストの見直しにより、販管費の減少を反映しました。

●次に、AlphaThetaは+21億円です。増収による利益増に加えて、調達価格の正常化が進むため、粗利率の改善等を反映しました。

●JLabは、期初予想から変更はございません。

●その結果、下段の対前期比較では、為替影響を除き、テイボーは減益、AlphaThetaとJLabは増益を見込んでおります。



●続いて、当期利益の増減分析です。

●まず、上段の期初予想との比較では、営業利益で+36億円です。

●上半期までの進捗を反映して、借入金の返済による利息の減少や、利益増による税金の増加等を反映しました。

●その結果、下段の対前期比較では、前期の非継続事業からの損益の影響を除くと、増益となる見込みです。

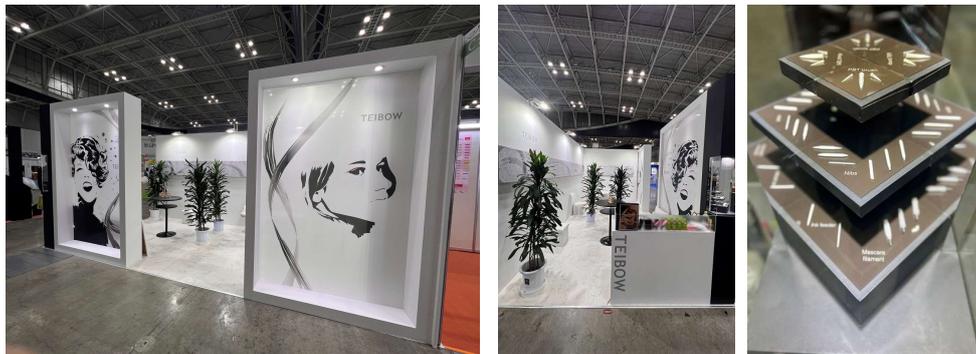
## Contents

1. FY23 2Q累計 連結業績
2. FY23 通期連結業績予想
3. トピック

- 最後に、トピックの紹介となります。岩切より説明いたします。

2023年5月17日(水)～5月19日(金)の3日間、CITE JAPAN 2023に出展

CITE JAPAN 2023（化粧品産業技術展）



© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. 19

- 部品・材料セグメントのテイボーです。
- 5月17日～19日にパシフィコ横浜で開催されました化粧品産業技術展（CITE JAPAN）に出展いたしました。
- コスメ事業のマーケティングの一環となります。
- テイボーでは、コスメ事業だけでなく、筆記事業やMIM事業いずれも主要な展示会へ積極参加しております。

DJ用・音楽制作用に代表されるオーディオ・ソフトウェアの開発・販売を手がけるSerato社の100%株式取得について合意

会社名	Serato Audio Research Limited
設立	1998年2月18日
本社所在地	Level 2, 8 Brown Street, Ponsonby, Auckland 1011, New Zealand
代表者	Young Ly, CEO
資本金	516千NZドル
事業内容	DJ用及び音楽制作用に代表されるオーディオ・ソフトウェアの開発及び販売、並びにそれらのサービスに関する事業
売上収益	40,370千NZドル
営業利益	10,475千NZドル
当期利益	6,639千NZドル

\*売上収益、営業利益、当期利益は、2023年3月期でのNZ会計基準による財務数値



- 次に、音響機器関連セグメントのAlphaThetaです。
- 7月11日に発表した、Serato社の株式取得についてです。
- Serato社のソフトウェアに対応した製品をリリースする等、既に協業関係にありましたが、当社連結グループ入りによって、AlphaThetaとSeratoという、2つのブランド間のパートナーシップを揺るぎないものとし、協業を推進してまいります。
- クロージングに向けてのプロセスにあり、詳細は当社ホームページ IR NEWSの該当リリースをご確認いただけましたら幸いです。

**JLab 新製品リリース『WORK BUDS』** **NORITSU**

2023年5月、ノイズキャンセリング機能付き着脱式ブームマイクによりクリアな通話を可能とする『WORK BUDS』を発売



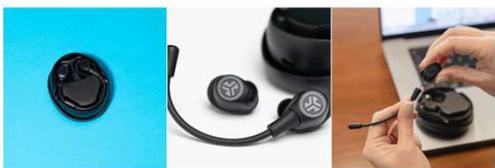

**LONG BATTERY LIFE**

The Work Buds True Wireless headset boasts a long 55+ total hours playtime. Enjoy your music, podcasts, or take calls for extended periods without having to worry about running out of battery. The earbuds themselves have a playtime of 10 hours per single charge for listening or 6+ hours of talk time. With its charging dock, you can easily top up the earbuds' battery whenever needed, ensuring that you never run out of juice when you need it most.



**BEST EARBUD FOR CALLS**

Whether you're in a busy office or a noisy city street, the Work Buds noise-canceling boom mic guarantees that your calls will be crystal clear and uninterrupted. The boom mic's noise-canceling technology helps eliminate background noise, ensuring that your voice is heard loud and clear on the other end. The detachable design of the boom mic allows for easy switching between calls and music, and the ability to fit either earbud offers a comfort and personalized experience.



© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved. | 21

●トピックの最後は、音響機器関連セグメントのJLabです。

●今回も新製品情報となります。

●5月に、パソコン周辺機器等のWORKシリーズから、ノイズキャンセリング機能付きブームマイクによりクリアな通話を可能とする『WORK BUDS』を発売いたしました。ブームマイクは着脱式のため、左右どちらのイヤホンにも装着可能となっています。

## Appendix

- 以上、FY23 上半期決算の説明となります。
- 経済環境は依然、不確実性が高い状況にありますが、当社の上半期においては何とか、予想を超えて着地することができました。また、クロージングはこれからですが、Serato社とのパートナーシップについても発表することができました。
- 中計FY25の達成に向け、重要施策を1歩1歩前に進められている認識は持っており、もちろん課題もあるのですが、総じて推進力は増してきていると捉えております。
- 引き続き、グループ事業の成長可能性の最大化と、持続的な企業価値向上のため、経営に取り組んでまいります。
- なお、当社では統合報告書を8月末に開示する予定です。英語版に先んじて、まずは日本語版となりますが、当社への理解をより深めていただく一助となりましたら幸いです。
- 今後とも、当社グループをご支援いただけますよう、よろしくお願いいたします。

- 米ドル及びユーロ取引が多いAlphaTheta及びJLabで影響あり
- 円安はグループ全体では営業利益プラスに

	概要	FY22 地域別売上収益構成比
テイポーター	<ul style="list-style-type: none"> <li>• グローバルで販売及び仕入ともに円貨取引が基本のため<b>対米ドル、対ユーロともに影響は僅少</b></li> </ul>	
AlphaTheta	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル</li> <li>• EMEAの売上収益が大きいため、<b>対ユーロで円安は利益プラス</b></li> <li>• 北米を中心とする米ドルでの売上収益が仕入をやや下回るため、<b>対米ドルで円安は利益マイナス</b></li> </ul>	
JLab	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 販売は各地域通貨を基本とし、仕入は米ドル</li> <li>• 米国の売上収益が大きいため、<b>対米ドルで円安は利益プラス</b></li> <li>• 米国以外は売上収益がまだ小さいため影響は軽微</li> </ul>	

\*1 APACは、アジア、オーストラリア（日本、中国を除く）  
 \*2 EMEAは、ヨーロッパ、中東、アフリカ

■ 為替の通期連結業績への影響について

為替の通期連結業績への影響は以下のとおり

為替レート（平均）の1円円安による影響額

通貨	FY23予想 為替前提	売上収益	事業EBITDA/営業利益
米ドル	130.0円	+3.2億円	+0.0億円
ユーロ	132.0円	+1.3億円	+1.1億円

2023年8月10日付修正予想の為替前提

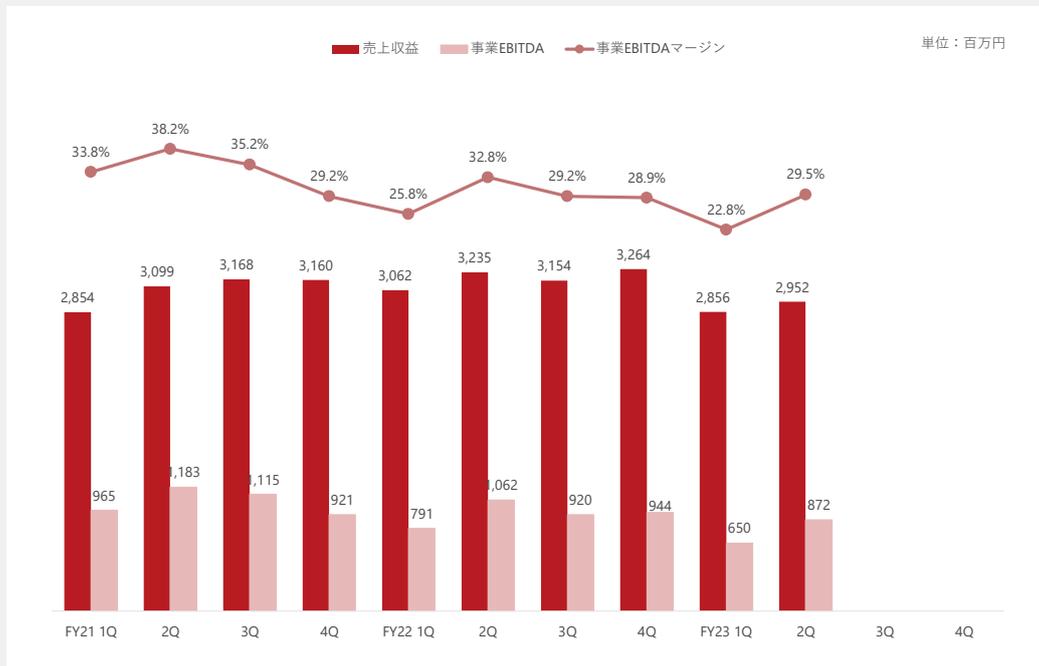
通貨	上半期	下半期	通期
米ドル	134.9円	130.0円	132.4円
ユーロ	145.8円	140.0円	142.9円

期初予想の為替前提

通貨	上半期	下半期	通期
米ドル	130.0円	130.0円	130.0円
ユーロ	132.0円	132.0円	132.0円

■ 四半期推移－ものづくり（部品・材料）/テイボー

NORITSU



© 2023 NORITSU KOKI Co., Ltd. All Rights Reserved.

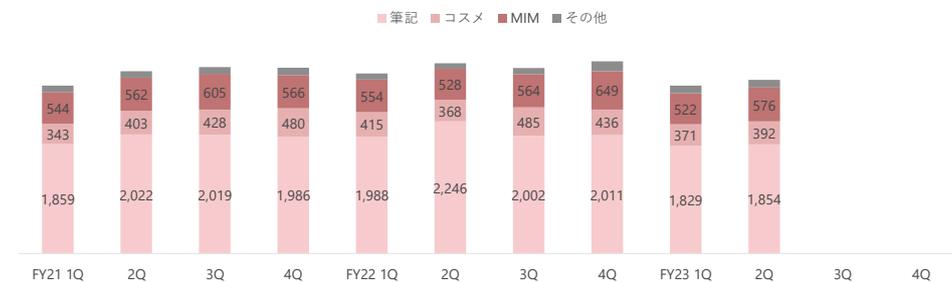
25

■ テイボー カテゴリ別売上収益推移/設備投資・減価償却費

NORITSU

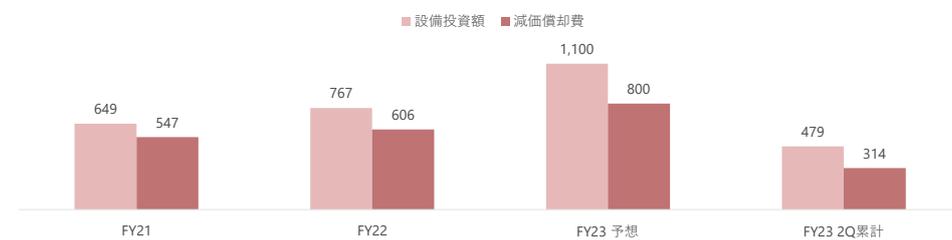
カテゴリ別売上収益推移

単位：百万円



設備投資・減価償却費<sup>\*1</sup>

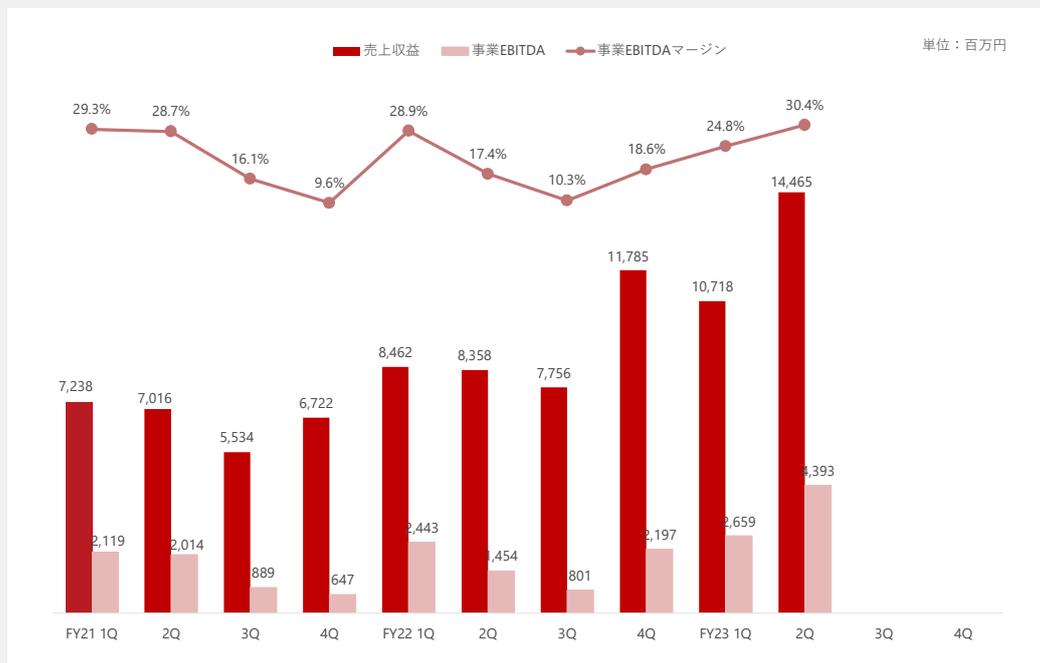
単位：百万円

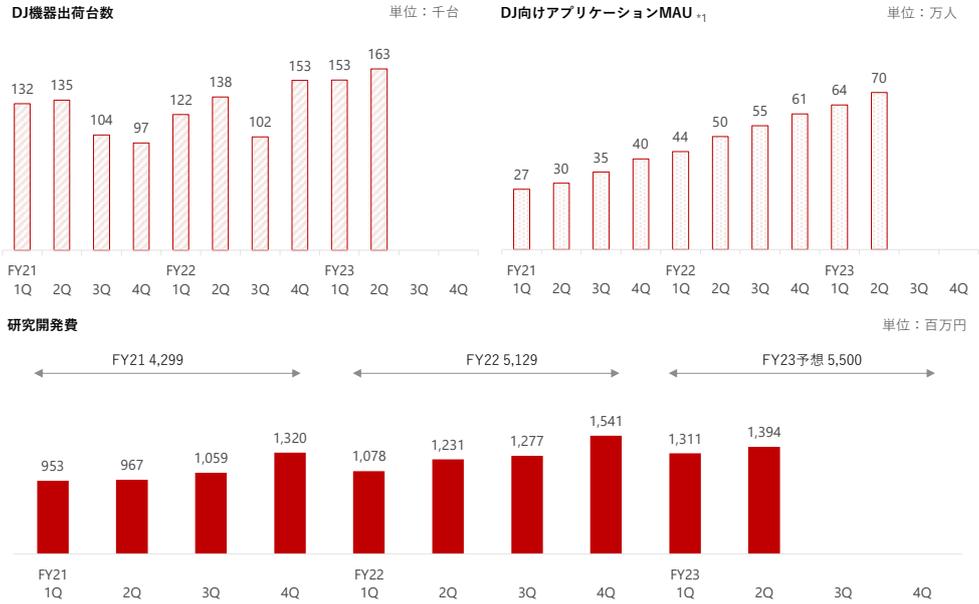


\*1 使用権資産に係る償却費及びPPAの償却費を除く

■ 四半期推移－ものづくり（音響機器関連）/AlphaTheta

NORITSU

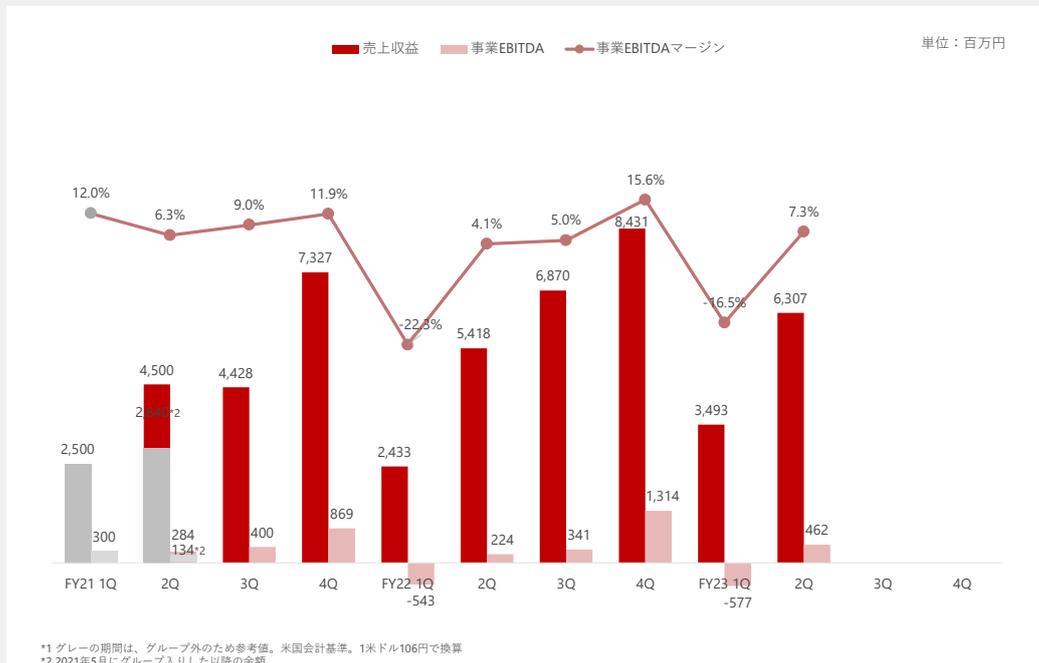




\* FY23 1Qの決算補足説明資料より、rekordbox ver.6以上のMAUに変更。MAUはFY21 1Qに遡及して変更済

■ 四半期推移－ものづくり（音響機器関連）/JLab

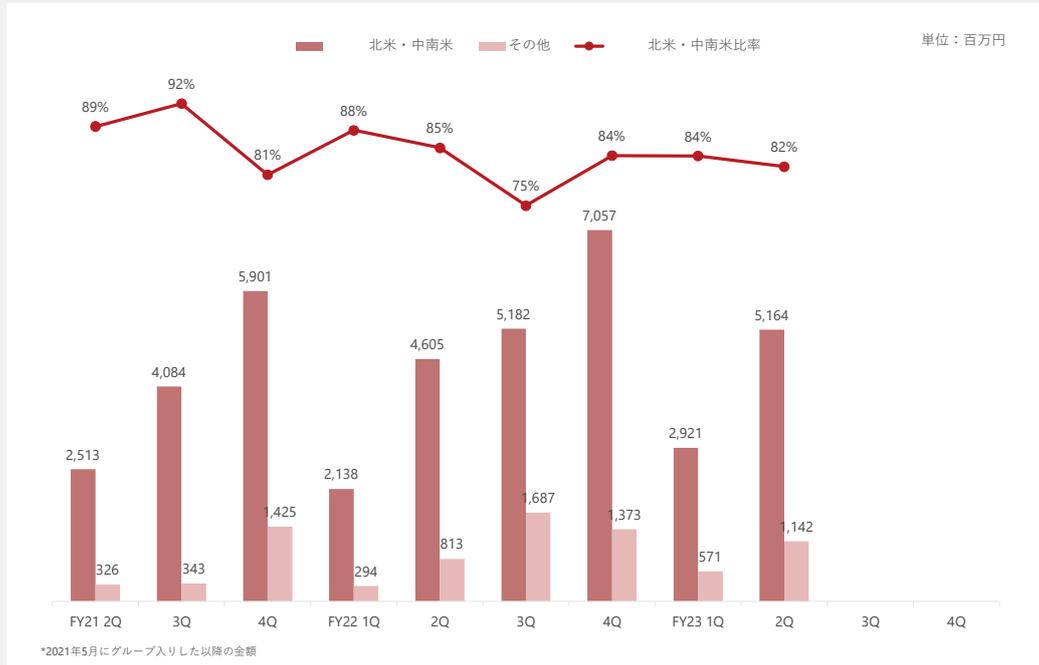
NORITSU



\*1 グレーの期間は、グループ外のため参考値。米国会計基準。1米ドル106円で換算  
 \*2 2021年5月にグループ入りした以降の金額

JLab 地域別売上収益推移

NORITSU



社名 ノーリツ鋼機株式会社（東証プライム市場：7744）  
代表者 代表取締役CEO 岩切 隆吉  
創業 1951(昭和26)年6月  
設立 1956(昭和31)年6月  
資本金 7,025,302,000円  
本社 東京都港区麻布十番1-10-10 ジュールA 5階

取締役	岩切 隆吉	取締役	太田 晶久
	横張 亮輔	(監査等委員)	伊庭野 基明
	大塚 あかり		高田 剛

■ 部品・材料

先端及び極小部材の製造事業

**テイボー株式会社**

**会社名** テイボー株式会社  
**代表者** 代表取締役社長 河内清志  
**資本金** 50百万円  
**主要株主** ノーリツ鋼機株式会社  
**事業内容** 筆記分野ペン先部品（フェルト、合成繊維、プラスチック）、非筆記分野、先端部材、MIM製造部品、コスメ用ペン先部材（合繊芯、プラスチック芯、ポリブチレンテレフタレート樹脂（PBT）ブラシなど）等の製造・販売

■ グループ会社

**泰宝制筆材料(常熟)有限公司**（テイボー100%子会社）  
 ・マーキングペン先部品の中国（江蘇州）における製造・販売拠点

**株式会社 soliton corporation**（テイボー100%子会社）  
 ・コスメ用ペン先部材の製造・販売

■ 音響機器関連

音響、音楽制作機器の商品開発事業

**AlphaTheta株式会社**

**会社名** AlphaTheta株式会社  
 （旧Pioneer DJ株式会社）  
**代表者** 代表取締役社長 片岡芳徳  
**資本金** 1億円（2021年12月31日現在）  
**主要株主** ノーリツ鋼機株式会社  
**事業内容** DJ/CLUB機器、業務用音響機器、音楽制作機器の商品開発・設計・及び販売、ならびにそれらのサービスに関する事業

■ 販売子会社

**AlphaTheta EMEA Limited**  
**AlphaTheta Music Americas, Inc.**  
**AlphaTheta (Shanghai) CO., Ltd.**

■ 音響機器関連

パーソナルオーディオデバイス製品事業

**PEAG, LLC dba JLab**

**会社名** PEAG, LLC dba JLab  
**代表者** Winthrop Cramer, CEO  
**資本金** 19M USD（2023年3月31日現在）  
**主要株主** ノーリツ鋼機株式会社  
**事業内容** パーソナルオーディオデバイス及びテクノロジー製品の設計及び販売